

Title	育英義塾の話
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1926
Jtitle	史学 Vol.5, No.1 (1926. 3) ,p.36- 36
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19260300-0036

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

育英義塾の話

明治の初年に於て、泰西の新學問を教授した所として慶應義塾は誰しも知つて居るが、これと同様な育英義塾の名は、殆んど知る人が無い。それでこの餘白をもらつて同義塾に就いて略述して置き度い。これは巖谷修の主唱にかゝり、舊公家烏丸光徳等數名が協議の上、年少の子弟を教育する趣旨で、明治四年十二月に開設した私學である。初め、芝櫻川町の舊水口藩主加藤明實邸内(俗に藪加藤)を以て其の學舎にあつて、後に烏森町の舊大溝藩主分部光謙邸内に移り、教師としては當時來朝の蘭人ライヘーと、獨人ウエーゼルの兩人で、主として英語と諸科學とを教授した。翌五年二月に社中の一人内匠大令城多董より文部省に願ひ出でて、其の開業免許を受け、校運漸く盛にならむとした。この年有栖川宮威仁親王(當時稱宮)もこゝに日日通學せられ、其の關係で兄宮熾仁親王は其の經營維持等に就いて多大の援助を與へられた。次いで同年十一月に第一大學區第三番中學校の名稱を許可せられ、後、又、早稻田(大隈邸附近)に移轉して、再び育英義塾と改稱した。爾來其の經營に就いては嘉納治郎作等盡力する所があつたが、遂に維持し難くなつて、七年二月二十八日に一時閉塾することとなつた。當時は慶應義塾の外に新學問を教授する所がないので、時勢の必要上同義塾は開設せられたものであつたが、猶早期に失した爲めか、不幸にして數年ならず閉塾したのは惜むべきである。當時こゝに來學する者の多くは舊公家大名の子弟であつたから、或は學習院の前身を以て目せられ、又後年に至つて名を成した者に嘉納治五郎、澤鑑之丞を始め尠くない。(塵泥録より) 武田勝藏稿